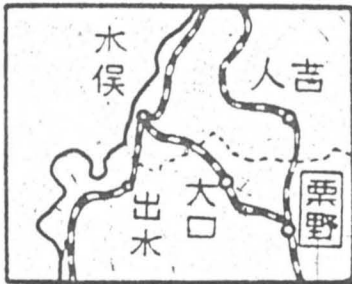


水俣病そっくりの奇病

猫30匹が狂い死ぬ

鹿児島県
栗野町 魚や貝を食べて

鹿児島県始良郡栗野町北方地区を中心に、猫の奇病が発生、現在までに三十匹が急死した。



シ、サバ、イカ、貝類の安売りをしており、この臓物を食べたためこのような奇病を起こしたものとみられる。部落民は水俣病と似ているので心配している。

◇中島鹿児島県医師、薬務課長の話 栗野で猫が狂い死にしたことは初耳だが、症状は水俣病にそっくりだ。水俣、大口、出水の三保健所では十分連絡をとり魚の持ち込みを監視しているが、監視の目をかすめて持ち込んだのかも知れない。そうだとすれば人道上憎むべき行ないだ調査のうえ対策を講じたい。

一カ月ぐらい前から宮下部落（戸数三千戸）の宮園貢さん（七五）をはじめ十四ぐらいの猫がつきつきに食物を吐き出し、黄色の泡をふき狂い回り、一日半ぐらいで死んだ。

現在まで死んだ猫は三十四匹にのぼっているが、同地区は昨年末ごろから、鹿児島方面の鮮魚商が、ア